



間伐材の運び出し作業 (官行造林地)

敷設を行いました。立山黒部アルペンルートの美女平駅すぐ近くから整備されている遊歩道は、立山杉の巨木やブナ林などを巡ることができ、旅行雑誌の富山紹介においてはたびたび掲載されるスポットとなっております。

近年、この遊歩道が表流水等により洗掘され、立山杉の根が傷んだり、泥がたまつてぬかるみとなり入林者が歩道の脇を踏み歩く箇所が多く見られるようになりました。このため、富山署では、「地域発案」としてこの問題に取り組むこととし、環境に極力負荷を与えない効果的な手法を検討した結果、保育間伐等による地元林内のスギ材を原料としてチップを製作し、この地元産一〇〇%のチップを傷んだ遊歩道箇所に敷設すること、このための作業を地域やボランティア等の協力を得ることにより地域の意識として実施することを発案しました。

昨年度は、保護管理協議会と協働で



チップ敷設作業 (美女平風致探勝林内遊歩道)

チップ敷設の実施にこぎつけることができ、地元からも、遊歩道利用者からも、「とても歩きやすくなった」、「環境にも景観にもマッチしている」と好評をいただいています。

二年目となる今年も、チップの原料については、美女平の麓にある立山町内の官行造林の保育間伐実施地を選び、敷設予定日の数日前に、林地内での玉切り、林道への運び出し、チップパーシュレッダーでのチップ化、袋詰め、美女平までの運搬などの準備をフォレストサポーターズの協力により行いました。

スギチップ敷設の当日は、あいにくの雨天にもかかわらず、地元の舟橋立山町長が自ら作業を行いたいと表明して参加をいただいたほか、保護管理協議会のメ

ンバー、フォレストサポーターズ、一般ボランティアの参集を得て、バケツリレー方式によるチップ詰袋四百五十袋の運搬、七〇区間のチップ敷設を無事行うことができました。チップ製作から敷設まで延べ百十四名の参加をいただき、地域発案の実現を一步進めることができました。

親子のエコ登山ツアー in 白馬

「中信署」九月十九日に、山と溪谷社八十周年記念事業である日本山岳遺産キャンペーンの二〇一〇年イベント「親子のエコ登山ツアー in 白馬」(中信森林管理署後援)が、長野県北安曇郡白馬村内の白馬山国有林及び八方尾根自然研究路で二日間行われました。

このイベントは、山の自然やそこで育まれた文化の素晴らしさを後世に残し、次世代に伝えていくことを目的とし、親子でトレッキングや美化活動を行うもので、五組十一名が参加しました。また、一日目の八方尾根自然散策では、平成二十二年度グリーンパトロールの田中隊長と尾近白馬森林官が同行し、散策やゴミ拾いを行うなかで自然の素晴らしさを説明しました。

当日は、爽やかな秋晴れで歩道から白馬三山や五竜岳はもとより戸隠連峰、浅間山なども見渡すことができ、親子そ

ろって大自然を満喫していました。

また、田中隊長から散策時にグリーンロープの役割や高山植物保護等について説明があり、参加者は真剣に聞き入っていました。散策後は、拾ってきたゴミの中身を見ながら、グリーンパトロール活動を通じての山のゴミ事情について話をしました。中でも参加者はゴミの内訳や順位に興味を持ち、鉛の袋が一番多い理由を聞いて納得していました。最後に、隊長から「登山の際はゴミを持ち帰ることにより多くの人が美しい山を楽しめるようにしましょう」という言葉で締めくくりました。



山のゴミ事情について話を聞く参加者

秋の阿寺溪谷を満喫

（ウォーキング等を楽しむ）

「南木曽支署」九月二十六日「信州の名水・秘水認定記念阿寺溪谷ウォーキング」が阿寺国有林で開催され、大桑村内外から家族連れや若いグループ、年配の方々約九十余名の参加がありました。

この大会は阿寺溪谷でひととき美しい「美顔水」が信州の名水・秘水に認定されたことを記念し、大桑村観光協会が主催し、各種ボランティア団体や大桑村、木曽地方事務所及び当支署が協働する中で開催されたものです。

美顔水のいわれは「その昔、木曽の山林を管理するためにやってきた尾張の国の役人たちの奥方が、朝に夕に、この水で顔をあらったところ、みちがえるほど美しく色白になった」と伝わる名水です。



美顔水（美しく色白になるとのいわれも）



ウォーキングを楽しむ参加者

この阿寺溪谷沿線は地元の要望をふまえて、支署と大桑村や地元ボランティアと協働して景観の整備をしたところです。

整備により溪谷の美しさや「美顔水」のPR活動をした結果、阿寺溪谷へ訪れる観光客も急増傾向にあります。

当日は、好天に恵まれ、汗ばむ陽気に参加者は自分のペースで約七キロメートルのウォーキングをしながら、溪谷の撮影や、植物観察をしたりしながら、昼頃には終点のキャンプ場に到着。午後からはネイチャーゲームで、秋の阿寺溪谷を満喫しました。

参加者からは「相変わらず美しい」「紅葉の時期に友人とまた訪れたい」等の感想がありました。今後もこういった国有林を活用したい

ベント等は、地域や関係機関の連携を大切にしながら積極的に取り組んでいくこととしています。

「地元NPOとNCF隊員が

歩道整備を通じて交流」

第十一回名古屋シティ・

フォレスター事業

「東濃署」九月十五日、加子母裏木曽国有林内にある木曽ヒノキ備林において、第十一回名古屋シティ・フォレスター事業（以下、NCF事業）を開催しました。

木曽ヒノキ備林では昭和二十六年〜三十四年頃まで森林鉄道を使用して運材されており、現在はその跡地の一部が遊歩道として整備されていますが、大雨等により洗掘されている箇所があるため、NCF事業による改修を計画したものです。

今事業については、企画の段階から地元ボランティア団体である「NPOつけち」に協力をお願いしました。

「NPOつけち」は以前から地元活性化やPRを目的とした活動をされており、東濃地域の財産である付知峡の山々を守りたいとの思いから、平成二十年には当署と協定を結び、国有林内で遊歩道整備等の活動をされています。

当日はNCF隊員十八名、「NPOつけち」からは早川理事長をはじめ八名の



整備前の洗掘された歩道



整備を行う隊員の皆さん

スタッフが参加、当署からも署長以下七名が参加し、総勢三十四名の賑やかな事業となりました。

荒れた歩道に間伐材を利用した階段と水路を設計し、砂利と木のチップを敷き詰めるまでの作業を隊員とスタッフが協力して行い、順調に進むかと思われた矢

先、空には徐々に暗雲が広がり、昼からは雨の中の作業となりましたが、全員
の協力により四〇分ほどの立派な遊歩道
が完成しました。



完成した歩道（大雨が降った後でも
洗掘されていませんでした）

片付けもそこに予定を切り上げて
下山し、集合写真は道の駅で撮ること
となりましたが、帰りに地元の温泉に入る
など、隊員の皆さんには楽しんでいた
けたようでした。

「NPOつち」早川理事長からは、
挨拶の中で「こうした活動に参加出来
大変ありがたい。今後も協力していき
たい」との言葉をいただきました。
今回の事業で、NCF事業の活動と地
元NPOの活動をお互いに知り合う良
機会となりました。

今後ともNCF事業に限らず、地域や
協定団体等と連携して、様々な活動に取
り組んでいきたいと考えています。

熱田区民まつりに参加

「名古屋事務所」九月十二日の日曜日、
名古屋市熱田区の区民まつりが開催され
ました。名古屋事務所からは地元のまつ
りということであり、今年で三度目の参
加となり、パネル展示と木の枝を使った
ストラップ（モックン）づくりを行いま
した。



ストラップ（モックン）づくりは大人気

厳しい残暑のなかにもかかわらず大勢
の家族連れや友達同士、お子様から年配
の方まで参加があり賑わいました。

名古屋事務所では、地域のイベントへ
積極的に参加し、森林づくりの取組や国
有林のPRに努めています。熱田区の
皆さんとの繋がりを深める機会となりま
した。

シリーズ 現場最前線

日々のミーティングで 危険を排除し安全作業

岐阜森林管理署 七宗森林事務所班

当班の現場となる七宗国有林は、岐阜
県下呂市と白川町との行政界に位置して
おり、尾張藩所領であった元和元年から
四百年近い歴史を地域住民とともに歩ん
でいます。

国有林の八割は水源かん養保安林に指
定され、下流域の重要な水源林となつて
いるほか、ここから生産される人工林ヒ
ノキは、昭和四十一年以降「東濃ヒノ
キ」として根強い人気を築いています。

班員は臨時を含めて二人。林道の維
持・修繕や歩道修理、林分調査、境界巡
視などを行っています。日々のミーティ
ングでは、どんな些細な業務でも「危険
はないか」を確認し、丁寧に効率の良い
作業計画を立てながら労働災害の防止に
努めています。近年、「ヤマビル」の活
動が顕著に見られ、多いときは一日に
二十匹以上張り付かれることもありま
す。そのため、休憩時に衣服を確認し合
うことが多くなりました。危険因子は作
業場所毎に変わりますが、二十二年間続
いている無災害を継続させていくため
にも、現場との連絡・調整を密にして業
務に励みたいと思います。

今後も、歴史ある国有林に責任と誇り
を持って勤しみ、健康で活力ある職場を
維持していきたいと考えています。



境界管理業務を行う職員

人のうごき

中部森林管理局人事

十月一日付

▽企画調整室企画調整係（大臣官房総務課国会班国会第一係）

矢部 博文

▽飛騨森林管理署業務第一課経管係（飛騨署古川森林事務所）

源田 聡子



入笠山

〔南信署〕 入笠山は富士見町と伊那市に跨る標高一、九五五^{メートル}の山で、南アルプスの一部です。南アルプスとは違って、甲斐駒ヶ岳や北岳などと違い、草原やのどかな放牧風景が広がり山頂近くまでゴンドラが延びており、子どもや初心者でも気軽に登山を楽しむことができます。

またなんとと言っても、山頂は八ヶ岳、奥秩父連峰、富士山、南アルプス、中央アルプス、北アルプスと日本の屋根が連



入笠山山頂

なる360度の大パノラマが広がっていることです。

入笠山は、高山植物の宝庫と呼ばれるほど花の種類が多く、四季折々の花々が訪れる人を楽しませてくれます。春の訪れは遅く、五月に入りようやくザゼンソウが顔を出します。六月、雨に煙る湿原を埋め尽くすように咲くスズランは八〇万株以上とも言われています。スズランというと普段目にするものはヨーロッパ産のドイツスズランですが、入笠山に自生するものは日本スズランで葉の下に隠れるように咲く小さな花が特徴です。日本固有のスズランの群生は珍しく、多くの方が訪れます。花の開花に合わせてマイカー規制が行われるため、登山者は車を気にすることなくゆっくりと散策を楽しむことができます。この季節には、クリンソウやレンゲツツジ、ズミなど本格的な夏の始まりを感じさせます。

七月・八月上旬まではクサレダマ、オミナエシ、ヤナギラン、マツムシソウ等々最も花の種類が多く、二週間ごとに咲き変わって違った景色を見せてくれます。秋の訪れも早く八月下旬ともなれば、湿原に風が立ち、エゾリンドウやノコンギクが花の季節の終わりを告げます。

入笠山は、ゴンドラ駅から御所平駐車場あたりまでの一帯に林間、湿原、草原が存在するために植物の種類が非常に豊富なことで知られています。また、真夏の太陽の下で咲き誇る花も、霧や雨の中

に幻想的に浮かぶ花もそれぞれの美しさで魅了します。

冬の季節、夏の花の美しさから神秘的な雪山へと姿を変えます。現在、密かなブームとなっている「スノートレッキング」。今までクロスカントリーでしか行けなかった場所へスノーシューで行けるようになったことから、冬の山へ出かける人が多くなってきました。入笠山は、ゴンドラを利用すれば往復三時間ほどで雪山を楽しむことができます。山頂からの景色も冷たく澄んだ空気の中、山々の白い稜線が神秘的な輝きを見せます。



上：スズラン
下：ヤナギラン

◆アクセス

《所在地》長野県諏訪郡富士見町

伊那市

○車でお越しの場合（マイカー規制あり）

中央道諏訪南ICから富士見パノラマリゾートまで約七分
富士見パノラマリゾートからゴンドラ利用で約十分

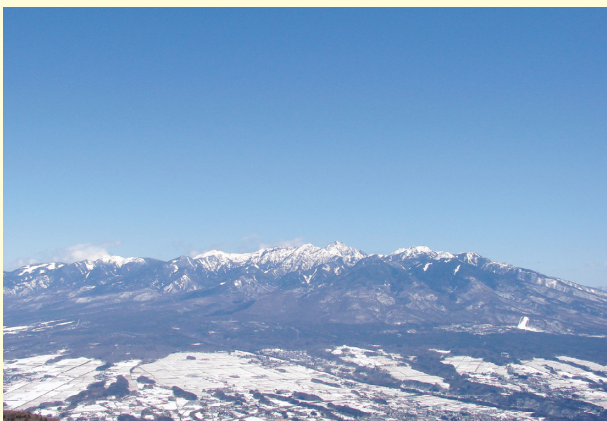
○公共交通機関をご利用の場合

JR 中央線富士見駅で下車し、タクシーで約二十分

なお、マイカー規制中は富士見駅から富士見パノラマリゾート行き^{の無料バスが運行。}



入笠湿原



見晴台から八ヶ岳を望む